## 新しい未来へはばたく翼を求めて

# 大館能代空港実現へ 最後の追い込み

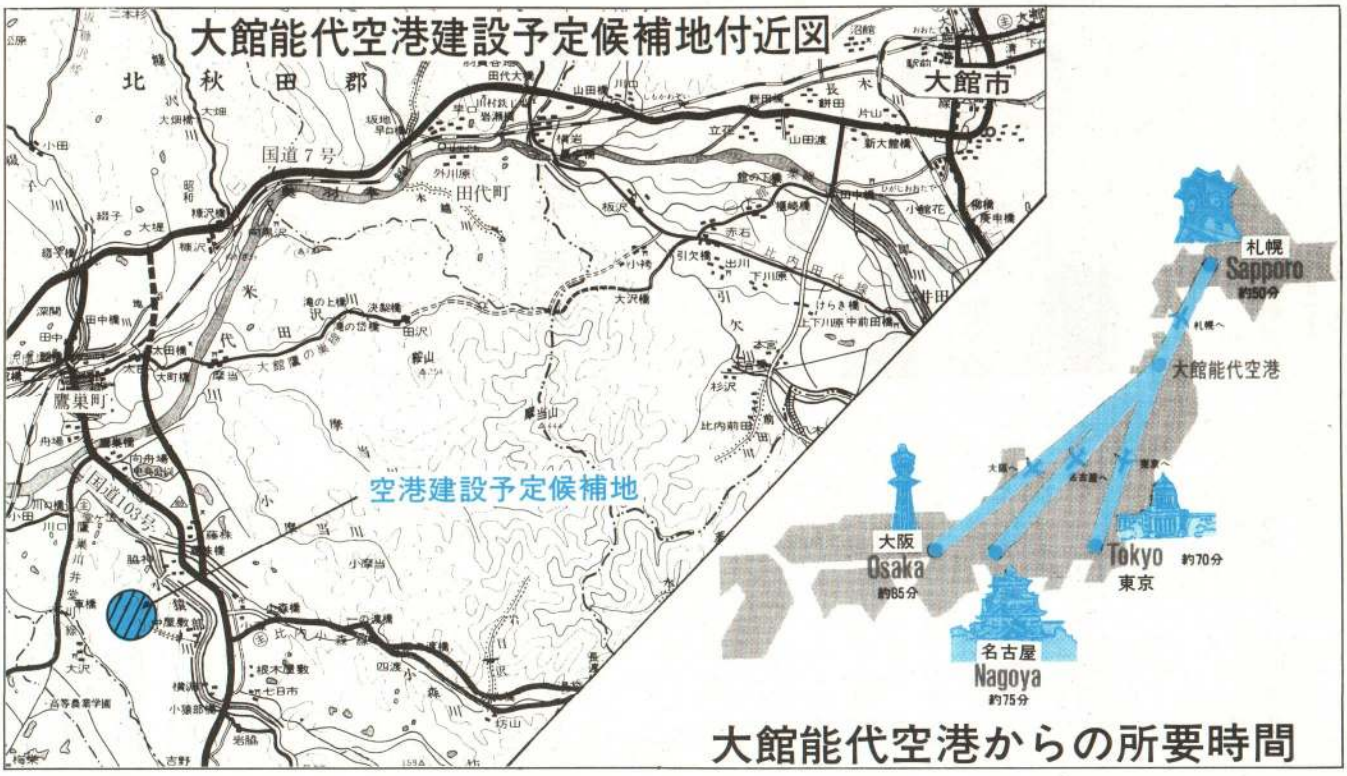
**高速交通体系の整備が遅れている県北地域。高速交通体系最大の切り札として「大館能代空港」の建設は、地域活性化を図るためにも、地域住民四十万人が一体となって是非とも実現させなければなりません。国の第六次空港整備五カ年計画での空港新設は、今年の秋ごろ決定になるものと予想されています。空港の早期実現に向けた運動は、いよいよ最後の大詰を迎えています。**

### 空港がもたらす地域への効果

建設を要望している大館能代空港は、建設地を鷹巣町大野台中屋敷付近に予定していて、滑走路二千メートル、ジェット機が就航できる規模です。

大館能代空港建設が実現すれば、この空港から札幌、東京、大阪など、主要都市の空港への所要時間は約五十分から一時間二十五分となり、大幅に短縮されます。それは、空輸メリットを生かした市場競争力の強化につながり、農林水産物の市場拡大や工業の技術革新、企業誘致の促進など、地域産業には飛躍の道が開け、地域での雇用拡大に伴う若者の定着も期待できます。また、「北緯四十度シーズナルリゾートあきた」に属するリゾート開発による観光発展の可能性も無限の広がりを秘めています。更に、空港へのアクセス道路、周辺の環境整備など、空港を中心とした総合的な開発を促すため、地域に機能性と快適性をもたらしてもくれます。

### 実現に向けて今が正念場

大館市をはじめとした県北地域は、高速交通体系の整備が遅れていて、東北の中でも首都圏から時間的に最も遠い地域となっています。このため、昭和六十二年八月に空港建設促進期成同盟会を設立し、自治体や経済団体などが一体となって、国や航空関係機関などへの陳情や決起大会などの運動を続けてきました。

しかし、空港建設の早期実現には、今年度から始まる国の第六次空港整備五カ年計画に組み入れられることが必要です。この計画は、今年の八月中に国の航空審議会で取りまとめられ、秋ごろには閣議決定となる見通しです。そのため、国や航空関係機関などへの陳情、中央総決起大会など、今まで以上に地域一丸となって運動を展開していくことにしています。